

IR 横浜

〈連載⑨〉米国・設計者が横浜を語る 「カジノなしでも人は来る」

横浜へのカジノを含むIR（統合型リゾート）誘致に反対する市民団体「カジノを考える市民フォーラム」が昨年12月、米国でカジノルームの設計や内装などを手掛ける建築デザイナーの村尾武洋さん（52）を招き、講演会を開いた。この中で村尾さんは「カジノがなくても横浜には人は来る」と語った。



講演会などで米国のカジノの村尾さん

ク在住。米国で2004年から約25カ所のカジノルームの内装などを手掛けてきた。横浜市のIR誘致方針が明らかになった昨年夏、横浜港運協会の藤木幸夫会長が誘致反対の意思を明確に表明した会見をYouTubeで目にした。「藤木会長に一言伝えたかった」と手紙を書き、それがきっかけで今回の講演会につながった。

「金をとす」仕掛け
「金を落とす」仕掛け
「金を落とす」仕掛け
「金を落とす」仕掛け

村尾さんは「最初の仕事で4億円の内装を依頼され、1年かけて作ったが、『6週間で元を返す』という。米国のIRはカジノのそばを通過して劇場やホテルに行く動線にしており、「（カジノに入れない）21歳未満の人にも目に触れさせるようにし、カジノに行く次の世代を育成している」という。加えて、カジノとホテルがセットになっていることが、売買取の温床になっているとも語った。

米国ではカジノ産業が衰退傾向で、事業者が新たなマーケットとして日本に目を向け始めているという。「街や道がきれいな横浜にはカジノがなくても人は来る」とした上で「本来、カジノを入れないとIRが成り立たない」というのはおかしい」と横浜市の姿勢に疑問を投げ掛けた。最後は「カジノがなければそれに越したことはない、日本には必要ないものだ」とまとめた。